

## 平成29年度 第1回 武蔵野市男女平等推進審議会議事要旨

日時 平成29年4月24日(月) 午後7時～9時  
会場 武蔵野市民会館 第2学習室  
出席者 権丈会長、小林副会長、伊藤委員、大田委員、菅野委員、木下委員、向井委員、山田委員  
傍聴者 なし

### 議題

- 1 委嘱状交付
- 2 市長挨拶(省略)
- 3 自己紹介(省略)
- 4 会長選任及び副会長指名  
互選により会長に権丈英子委員が決定  
会長指名により副会長に小林智子委員が決定
- 5 議題
  - (1) 男女平等推進審議会運営に関する基準等について
  - (2) 男女平等推進審議会の年間スケジュールについて
  - (3) 第三次男女共同参画計画の推進状況に関する男女共同参画推進委員会からの指摘事項について
  - (4) 市民意識調査の調査項目について
  - (5) その他

#### ■議題(1) 男女平等推進審議会運営に関する基準等について

資料3に基づき事務局が説明

##### 【副会長】

- ・資料3の審議会運営に関する基準で「委員長」としている箇所は「会長」に訂正すべきである。

##### 【事務局】

- ・訂正する。

#### ■議題(2) 男女平等推進審議会の年間スケジュールについて

資料1及び7に基づき事務局が説明

##### 【会長】

- ・市長から男女平等推進審議会への諮問書の内容はどのようなものになるのか。

##### 【担当部長】

- ・今後検討し、次回の審議会時に提出する。

#### ■議題(3) 第三次男女共同参画計画の推進状況に関する男女共同参画推進委員会からの指摘事項について

資料4に基づき事務局が説明

##### 【会長】

- ・今回の指摘事項をまとめる時期が遅く残念であった。次年度の事業に反映するためにも年度内にすみやかにまとめ所管部署に伝えていくべきである。

##### 【事務局】

- ・今後は年度内に確実に所管部署に伝わるようにしたい。今回の指摘事項についても平成28年度の推進状況調査報告書に反映できるよう努めたい。

##### 【会長】

- ・この指摘事項に関し、確認の意味で何か意見等があれば受けたい。

##### 【委員】

- ・デートDVに関する大学への出前講座は今年度で4回目になる。今年の6月にも成蹊大学で行うことが決まっている。市内大学の在學生には必ずこの講座を受講してほしいという願いを込めて行っており、成蹊大学のほかにも日本獣医生命科学大学など増やしていけたらよい。委員より、中学校で同様の授業を行っているという以前伺ったが。

【委員】

- ・成蹊に限らず、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、保護者向けに行っている。

【委員】

- ・何か一緒にできるのであれば、ぜひ一緒に行きたい。

【委員】

- ・大学生の時点では少し遅いので、もっと若年世代に向けて行ったほうがよい。19歳未満のデートDV経験者の数字がかなり高いという統計が出ているので、その年齢になる前までには周知していく必要があると考える。

【委員】

- ・中学生くらいに押し行きたい。

【委員】

- ・広めていく必要がある。

【会長】

- ・デートDVに関するさらなる普及・啓発ということで、講座回数の増加や、より若年世代も対象にすべきであるという意見である。

【事務局】

- ・今後施策に反映できるよう努めたい。

■議題（4）市民意識調査の調査項目について

資料5及び6に基づき事務局が説明

【会長】

- ・問3に追加する質問にはどのように回答してもらうのか。

【事務局】

- ・パートナーに最もしてもらいたい項目に丸を1つ付けてもらうことを考えている。

【副会長】

- ・1つでは少なく、3つ程度付けてもらったほうがよい。

【委員】

- ・1つにしたほうが、最優先の事項を知ることができるかもしれない。

【副会長】

- ・役割分担の実態を把握するという意味では、いわゆる家事労働的なものの全体の分担割合を、それぞれがどのように認識しているのか、また、認識に違いがあるのかについて把握すべきではないか。

【委員】

- ・平日と休日の違いなども含めて、家事労働の時間を聞いてみてはどうか。

【副会長】

- ・どのぐらいの時間行っているかという質問のしかたである。

【会長】

- ・家事全般についてあまり細かくしすぎると、時間配分の記述が不正確になり、解釈もしづらくなる。

【副会長】

- ・確かにあまり細分化し過ぎても実態が見えなくなってしまう。

【委員】

- ・例えば、家のこと全般は家事として、食事のしたくや洗濯などには分けて、あとは育児、介護

というように大まかにするのはどうか。

【会長】

・そうすると、問3の「あなたは日常生活において、家事や育児、介護・看護をしていますか」の設問に、「あなたのパートナーについてはどうですか」と付け加えるか。

【副会長】

・それとも、もう少し数値的な割合的要素を入れ込んだ聞き方にするか。

【会長】

・平日と週末や休みの日についても分けて聞くなどしてはどうか。

【副会長】

・その上で、パートナーに最もしてほしいことについて、1つ又は複数の回答にするかという点はあるが、答えてもらう。それから、庭・玄関周りの掃除という項目は不要ではないか。

【会長】

・最もしてほしい家事を聞いたとしても、結果として得られるデータの使途はあるのか。

【副会長】

・やはり、どのくらいしているのか、どのくらいしてほしいかであろう。

【委員】

・この問3の設問の回答結果はどのような形で生かされていくのか。

【事務局】

・家事をしている男女差が浮き彫りになれば、より男性の家事参加を促進していかねばというところで、計画にもそのような施策を掲げることになる。

【会長】

・総体的に男性に家事をもっとたくさんしてほしいというメッセージになるだろう。

【委員】

・分担割合がわからないので、例えば、家事を大体何%ぐらい負担しているのかと質問してから、個別な家事の種類を聞いてはどうか。なるべくシンプルな聞き方をしたほうがよい。

【会長】

・細かくはないが、問2で役割分担の状況がある程度把握できる。問3でさらに細かく聞いて質問が多くなると、回答する側の負担も大きくなるため、あまり多くはしたくないということもある。問3はもう少し検討することとしたい。問4の(2)、(3)、(4)、(5)の設問を削除してはどうかとの案についてはいかがか。

【委員】

・削除する理由は何か。

【委員】

・個人がどのような家庭を持ち、どのように生きていくかはあくまで自由なので、とても失礼な設問のように感じた。同様に、男女平等を謳っておきながら、「女の子も経済的自立ができるように育てたほうがよい」との設問もいかがかと思う。

【委員】

・そのように思う人がいるかどうかを調べるわけなので、あってもよいのではないか。そのような考え方をする人もいるかもしれない。ただし、「ひとつの生き方である」との表現はいかがかと思うが

【委員】

・少し上から目線のような聞き方である。もし自分が未婚で子供を育てていたら、不快感を覚えるだろう。むしろ、(1)の「結婚するかしないかは個人の自由である」の設問で全て網羅されているのではないか。

【委員】

・(12)の「結婚しても、どうしてもうまくいかない場合、離婚しても構わない」の設問に関しては、一方で経済的負担などの理由で離婚できないこともある。そのようなことを超越したもっと核心的なところを聞く設問にすべきではないか。

【委員】

- ・確かに少し時代遅れの印象を受ける。

【委員】

- ・家族のあり方は変化してきており、今は男女の役割を明確に決められない時代である。同性婚などもあり、設問の内容としてふさわしくないかなというものもある。

【会長】

- ・(2)、(3)、(4)、(5)の設問は削除してもよろしいか。それとも、もう少し言い方を変えて残したほうがよいと考えるか。

【委員】

- ・男女平等の条例を制定した行政がこのような聞き方をするのはいかがかという感じはする。

【委員】

- ・設問の意図するところは、家族のあり方が変化し、役割や子育てに対する考え方が多様化しているということであろう。

【委員】

- ・未婚に関しては、むしろ男性がどんどん増えている時代である。ここは考えなければいけないのではないか。

【委員】

- ・お互いにどう充実させていくか、また、どうして充実させづらくなっているのかが問題である。今や家事はほかの人に頼める時代でもある。

【委員】

- ・この設問のような尺度ではなくなっている。

【委員】

- ・家族のあり方ということを取り入れるのであれば、「同性婚には賛成である」などの設問を入れてはどうか。また、いわゆる里親などの新たな家族形態について受け入れられるなど、これまでの価値観と異なるものを入れてはどうか。

【委員】

- ・養子縁組なども。

【会長】

- ・少し古く感じられるものを外して、入れかえるようにしてはどうか。

【委員】

- ・男の子は男の子らしくなど、この設問自体がもう古過ぎるのではないか。問3にしても、男女の意識の違いがしっかりデータとして表面に出るものがおもしろいのではないか。

【会長】

- ・役立つ情報になるかということである。

【委員】

- ・性差がどこにあるのかということ。

【委員】

- ・男女ともに働くことはよいが、子育てを含めた家庭の充実度向上のための両輪の部分のデータが出るとよい。今回の条例の中身からみて、この設問は省いてよいなど、考慮しなくてよいものもあると思うので、そこをもう一度見直すことが必要ではないか。

【委員】

- ・問4に関しては、全ての設問が既に時代おくれだと思うので、設問は少なくともいいから、例えば、「養子縁組などの家族形態も受け入れられる」といった設問や、また、「同性婚も認めるべきである」など、新たに幾つかを入れてボリュームは半分くらいにしてもよいのではないか。

【会長】

- ・そのような設問にしたほうが、今後の政策の方向性などに役立ちそうだ。

【委員】

- ・そのような設問にして、やはり同性婚を認めない市民が例えば半数以上いるという結果が出た

としても、またそこで新しい方策など考えればよいのではないか。

【事務局】

・いただいた意見を参考に研究したい。

【会長】

・調査項目がある程度まとまったら、各委員にメール等で送付し再度確認してもらおうようにしてほしい。

【事務局】

・了解した。

【副会長】

・問11（4）の「地域の交流機会を充実できるように支援する」は、ワーク・ライフ・バランスの関連性としては、社会的な活動が増えればライフのほうが充実するだろうということか。

【事務局】

・そう。仕事と生活だけでなく、地域活動が増えればライフも充実し幅が広がる。

【会長】

・今のままではわかりにくいので関連性がわかるように変えたほうがよい。また、市役所職員のワーク・ライフ・バランスの実践については必要ないか。市役所は働き方の模範にという話があったかと思うが。

【事務局】

・条例では市の責務として、「他の事業所等の模範となるよう努める」と規定している。残したほうがよいか。

【会長】

・あってもよいのではないか。また、中小企業への情報提供に関しては、ほかに似ている設問はないか。

【事務局】

・（5）の企業への情報提供、表彰と、（7）のマニュアル作成やアドバイザー派遣制度の助言があるが、こちらは中小企業には限っていない。

【会長】

・（7）と（10）は近い内容なので、区別をはっきりできるようにするか、まとめるかしたほうがよい。

【担当部長】

・大企業、中小企業にかかわらず、市内企業に向けてなどとするか。

【委員】

・中小は必要ないのではないか。市内の企業だけでよいのではないか。

【会長】

・中小企業に対して何か特別に講じる施策などがあれば選択肢として入れてもよいかと考えるが、特段ないのであれば企業というくくりでよいのではないか。もう少し検討が必要である。

【事務局】

・今後検討する。

【委員】

・問23（10）の「名簿や座席など男女を分ける慣習をなくすこと」とあるが、慣習で名簿を作成しているわけではない。例えば、体力調査などは男女別で行う必要があることから作成しており、実態として必要に応じて作成している。それを、あえて男女一緒にするということは非効率になってくる面もある。慣習で行っているわけではなく、必要に応じて行っていると考えたときに、この質問の意図に沿うことは難しい面もあるので、この選択肢は考えたほうがよいのではないか。

【委員】

・最近、地域の卒業式と入学式に出席したが、行進は女子と男子が並んで入ってきて座るときに分かれる形だったので、そこは以前よりもよくなった。ただし、名前は先に男子が呼ばれてい

たので、そこは変わっていなかった。卒業名簿も男女別である。この選択肢は残してもよいのではないか。ただ、確かに慣習ではないので、卒業式、入学式などとしてはどうか。

**【委員】**

- ・例えば、男女を分ける必要がないものに対して分けているということについては、見直していく必要があるかと考える。ここに、名簿、座席というように特定されていることがどうなのか。先ほども言ったように、名簿については明らかに慣習ではないということもある。また、座席もその時々によるところがある。先ほど出たように、卒業式であえて分けることがあるのかということに対しては、説明する責任があり、必要がない場合もあるかと思う。しかし、ここであえて名簿、座席と特定しているところはいかがかなと考える。

**【委員】**

- ・そうすると、「卒業式や入学式における名簿や座席など、男女を分けることをなくすこと」にしてはどうか。

**【委員】**

- ・興味深い設問ではあるので、何か言い方を変えて残したい。名簿は削除したほうがよいか。

**【会長】**

- ・出席簿とした場合にはいかがか。

**【委員】**

- ・出席簿としたとしても、保健など教科によって分ける必要が出てくる場合がある。

**【副会長】**

- ・「合理的な理由がなく」などと入れたらどうか。

**【会長】**

- ・しかし、そうすると、合理的な理由がないのだから、必然的に丸をつけるのではないか。

**【委員】**

- ・名簿や座席という言葉がひっかかるのであれば、授業や式典などという言い方にしてみてもどうか。

**【委員】**

- ・大きく捉えるのであれば行事という言い方もできる。

**【会長】**

- ・「授業や行事などで、合理的な理由がなく男女を分ける慣習をなくすこと」、そのような表現にしてはどうか。

**【副会長】**

- ・授業や行事で合理的な理由なく分けるとの表現はわかりにくいかもしれない。

**【会長】**

- ・特段理由もなく男女別に分けているケースは多いのか。減ってきているではないのか。

**【委員】**

- ・ここにある慣習という言い方をしたときに、例えば行事等で、以前こうだったから同じように男女別に分けているということがあるならば、それは是正すべきところかなとは思う。

**【委員】**

- ・それにしても、式典で男子が先になることについてはほんとうに変わらない。当たり前のことだと思われているので、おかしいと言う人がいないのだろう。

**【委員】**

- ・当たり前にならされてしまっているのかもしれない。

**【委員】**

- ・当たり前であるという意識を変えていかないといけない。

**【委員】**

- ・名簿と座席を違う表現にできないか。

**【会長】**

- ・「授業、行事や式典などで男女を分ける慣習をなくすこと」ではいかがか。

**【委員】**

- ・そのほうがシンプルでよい。

**【会長】**

- ・では、残したほうがよいということだが、文言についてはもう少し検討してみるということにしたい。
- ・問26は、「まなこ」で取り上げてほしいテーマに変更する案だが、今後の発行していく上でもこのほうが参考になるということか。

**【事務局】**

- ・そのとおり。

**【会長】**

- ・選択肢にその他として、具体的にテーマを書いてもらうことも必要だと考える。

**【事務局】**

- ・そのように加える。

**【会長】**

- ・性的少数者に関する設問に関してだが、性的少数者の人は必ずしも悩んでいるとは限らないだろう。

**【委員】**

- ・悩んでなくとも同性を好きになる人もいるわけなので、この(2)と(3)の選択肢を設けることは、同性を好きになる、イコール悩むことにつながると行政が捉えていると思われてしまう。(1)の「悩んだことがある」の選択肢は本人のことなので必要である。要は、知り合いにLGBTの人がいるかどうかということではないのか。

**【会長】**

- ・そうすると、悩むという表現ではなくなる。

**【事務局】**

- ・適切な聞き方を考えたい。

**【委員】**

- ・LGBTに関する設問を入れたいという気持ちはわかるが、そういったことはいろいろなところに散りばめられていればいいわけで、独立してつくる必要はないのではないのか。性的マイノリティも少し危ない感じがする。マイノリティではないのだから。

**【委員】**

- ・先ほどの家族のあり方などのところで入れられないか。

**【会長】**

- ・政策に落とし込めるようなものを聞いたほうがよいので、先ほどの問4の家族のあり方のところで何か聞いてみてはどうかとの意見である。
- ・どれくらいの人たちがいるのかを知りたいとのことであれば、本人だけに聞く形でよいのではないか。

**【委員】**

- ・どれだけいるか知りたいというところももうよいのではないか。

**【委員】**

- ・次のページの人権を守るために必要な方策に関する設問は必要だと考える。

**【会長】**

- ・そこには違和感はない。

**【委員】**

- ・ここの書き方だが、性的マイノリティの人の人権を守るためにではなく、人権を守るために、性的マイノリティの人に対してという形にしたほうがよいのではないか。どの人権も守られなければいけないのだから、性的マイノリティの人だけではないわけである。あえてこのように書いてしまうと、何か特別になってしまう。

**【委員】**

- ・おそらく、パラリンピックの障害者の人にもマイノリティといったような言葉を口にした場合に違和感が生じるであろう。ほんとうに平等だと思っている人の口からは、そのような言葉は出ないはずである。

**【委員】**

- ・LGBTのほうがよいか。

**【委員】**

- ・LGBTもそろそろ古くなってきている気がする。

**【委員】**

- ・しかし、LGBTに関しては、やはりもっと知って理解する必要があると思う。人権を守るために、このような人たちに対して、どのような方策が必要かという聞き方をしたほうがよい。

**【委員】**

- ・この調査から浮かび上がるもので、何の施策に落とし込みたいのかというところが見えない。ひとまず入れておきますという感じではないのか。おそらく、渋谷区のアンケートでは、このようなことは聞かないのではないのか。

**【事務局】**

- ・渋谷区の調査の資料はないが、資料5で5つの他区市の設問例を載せている。今回の案は杉並区と清瀬市の設問を参考にした。

**【委員】**

- ・世田谷区の「今まで自分の性別に悩んだことはありますか」の設問はシンプルで、差別の感覚が非常に薄れている。

**【委員】**

- ・しかし、聞いていても解決方法がみえない。

**【委員】**

- ・世田谷区のは、いつごろの調査か。

**【事務局】**

- ・二年ほど前である。世田谷区はまだ条例は制定されていない。

**【委員】**

- ・悩むというのは、標準値ではないから悩むのか。昔であれば、標準値のところで人と違うのではないかということがあがるが、今はテレビを見ている、人と違って当たり前のようなところをよく目にする。

**【委員】**

- ・おそらく言いたいことは、自分の性別について、例えば、自分は心は男性なのに胸があることに対して嫌悪感を抱くなど、そのような自分の性差に対して違和感を覚える人が、LGBTの人にとって大きな問題なのだろう。

**【委員】**

- ・なので、そのための解決方法を問うための設問だと考えれば、やはり必要であると考えるので、清瀬市の設問と同様になるだろう。解決するためには、教育を学校で行う、啓発活動を行政が行うなど、やはりそういうものがないと解決に導かれないような気がする。

**【委員】**

- ・武蔵野市はこれからの段階である。この調査結果次第では、例えば、渋谷区や世田谷区のような制度をつくるなど、推進していくかということを知るためにも、あってもよい設問であると考える。

**【副会長】**

- ・この最初の性別や恋愛対象などについて、その当事者がどうかということは掘り出したいだろうが、おそらくそれをして、正確な数値がとれるわけではないだろう。そうだとすると、例えば、その当事者だとなった場合に、その先の何らかの質問への答えに違いが出てくるのであれば聞く意味もあるが、一旦、分けることの意味がその先につながらないのであれば、必要ないのではないのか。

【会長】

- ・プライバシーにかかわる問題であるので、聞いておいて、でも使えないということだと、ただ知りたいだけの質問になってしまうが。

【委員】

- ・LGBTの人たちにこういった傾向があるなどのデータが出せればよいが、おそらく総数が四百幾つでは、何も出ないだろう。年代もばらばらだったり、高齢の人に聞いていることから、思うような数字は出てこないだろう。

【副会長】

- ・では、この施策の質問はすることにするが、性的マイノリティという言葉遣いはやめてLGBTとすることでどうか。条例をつくるときにも検討したが、全てのものを包摂する言葉を見つけるのは難しい。回答する人に範囲を正確に理解してもらう必要があるので、そのくらいでないと無理だと考える。

【会長】

- ・そのようにして、説明をつけるということではいかがか。

【事務局】

- ・承知した。

【会長】

- ・育児休業・介護休業に関する設問で、「1歳から中学生までの子がいると答えた人」としているが、1歳未満も含めてもよいのではないか。

【委員】

- ・保育園に1歳未満から預けている母親もいるので、ゼロ歳からにしたほうがよい。

【会長】

- ・実際は、子どもが中学生より上でも、育児休業を取得したことがある人はいる。最近の状況を知りたいということで、中学生までとすることでよろしいか。

【事務局】

- ・承知した。

【会長】

- ・それから、育児休業を取得したことがないという理由として、働いていなかったからということもあるのではないか。

【委員】

- ・出産のときに会社をやめたという項目が入っていればよいのではないか。

【会長】

- ・それは、介護休業の場合も同じである。

【会長】

- ・勤務地を聴いているが、勤務地は現在の勤務地を答えるので、必ずしも育児・介護休業を取得したときの勤務地とはならないだろう。したがって、後で扱うときに、勤務地を活用しようとするとなんかずれが生じるだろう。

【副会長】

- ・もし活用するのであれば、それぞれそのときの勤務地を聞けばよいのではないか。

【委員】

- ・必要ないかもしれない。子供を産んで転職する人も結構いるので、当時は武蔵野市の会社ではなかったが、現在、武蔵野市内で働いている人がいると混乱が生じる。あえて入れなくてもよいのではないか。

【会長】

- ・あまり細かく聞くと、答える側の負担になることもある。他方、育児・介護休業と直接関係なくとも、他の設問で、この勤務地が生きてくるのであれば、聞いておいてもいいかもしれない。

【事務局】

- ・生きてくる設問が幾つかある。

**【会長】**

- ・F 7やF 8で住まいの地域を聞いているが、その後の設問で勤務地を聞く形をとってはどうか。

**【事務局】**

- ・承知した。

**【会長】**

- ・今回調査から削除する項目案の問17の相談窓口に関する設問に関しては、これまで施策に効果的に反映されなかったのか。

**【事務局】**

- ・センターではすでに相談事業を開始し、電話相談や休日夜間も行っていることから、この設問に関してはすでにカバーできている部分が多い。

**【会長】**

- ・改めて問16を見ると、ここの困り事を聞いた意義は何なのか。例えば、性同一性障害は0.3%とあるが、このようなデータから『まなこ』のテーマや講座の実施につなげることがあるのか。

**【副会長】**

- ・問26で、『まなこ』で取り上げてほしいテーマを聞いているので、必要ならばここで項目を増やせばよいのではないか。

**【委員】**

- ・そちらにしたほうが答えやすいだろう。自分の悩みに関してこれだけの種類を考えさせるのであれば、取り上げてほしいテーマを選ぶほうが負担も少ない気がする。

**【会長】**

- ・『まなこ』のテーマで聞いたほうが直接活かせるかもしれない。あるいは、講習会のテーマを聞いている設問はあるか。

**【事務局】**

- ・講習会のテーマはない。

**【委員】**

- ・今後、「ヒューマンあい」の講座室も活用していくこともあるので、講習会のテーマはぜひ聞きたい。講習後のアンケートでは、今後参加したいテーマとして、LGBTのテーマが必ず一定量あがってくる。

**【会長】**

- ・本人が悩んでいるというだけではなく、おそらく話題になっているので理解しておきたいということだろう。

**【委員】**

- ・全くわからない世界ということになるので、そういうことだろう。

**【会長】**

- ・では、ほかに何か意見等があれば事務局の方に連絡をお願いします。今後事務局より本日の意見も反映した調査の改訂版を各委員に送ってもらうこととする。最終的には、市のほうで調整することとなる。
- ・では、議事録の確認について事務局から。

**【事務局】**

- ・資料8の第4回推進委員会議事録をについて、修正等あれば連休明けぐらいまで連絡いただきたい。
- ・また、8月後半に予定している第2回審議会の日程調整については、改めて調整表を送るのでこちらに記入いただきたい。

**【会長】**

- ・では以上で本日の審議会を終了とする。